

令和2年度 小田小学校が めざす教育活動

◎新型コロナウイルス感染症の予防に最大限努め、教育活動を行います。

児童の学校生活をスムーズに行うことができ、かつ、新型コロナウイルス感染症の予防ができるような小田小学校の新しい学校生活を築いていきます。「横浜市立学校の教育活動の再開に関するガイドライン」に基づき、お子さんの安全と安心を第一に進めてまいります。

◎中学校併設小田小学校として、中学校と連携を深めた教育活動を進めます。

令和元年度 学校運営協議会 小田小学校小田中学校合同
地域学校協働本部 (KCS) 小田小学校小田中学校合同 *中学校、地域との今までの連携が土台です。*



義務教育9年間で

コミュニケーションを通して社会や自分の未来を創造する力

の育成を目指します。

★教職員、児童生徒の交流がより行いやすくなることで、教育活動が広がります。

例 高学年の授業で専門性をもった中学校の先生が小学校の授業に入る。

中学校の授業に、小学校での経験を確認するため、小学校の先生が入る。

小学校中学校の児童生徒が、代表者だけではなく、学年全体で交流し活動する。

*具体的な活動は、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて、できることから行います。

○小田小学校では、そのために…。

新型コロナウイルス感染症の予防に努めた方法を工夫しながら、

・夢中になって学ぶ楽しさを味わえるように、新学習指導要領に沿って、授業改善に努めます。

・人との「つながり」を大切にした学校生活を送れるように、指導、支援を行います。

お知らせ

新型コロナウイルス感染症の予防のため、「横浜市立学校の教育活動の再開に関するガイドライン」に沿って学習を進めております。そのため、音楽科と体育科はお子さんの十分な学習状況を評価に反映させるため、後期のあゆみで、年間を通した評価をさせていただきます。あらかじめご承知おきください。

令和2年度 横浜市立小田小学校 学校説明会 資料

★この資料は学校説明会などで配付予定だった資料です。

資料内容

- 学校教育目標と方針
(令和元年度～R3年度 中期学校経営方針)
- 横浜市学力・学習状況調査結果にもとづく
学力向上の取り組み
(学力向上アクションプラン)
- 学習年間指導計画 (各学年)

学校教育目標	「元気 友達 笑顔 いっぱい かがやく 小田小学校」			
	知：課題の解決に向けて、自らすすんで、根気強く取り組む子を育てます。 徳：豊かなふれあいを大切に、互いに認め合える子を育てます。 体：心と体を鍛え、生命や健康を大切にする子を育てます。 公：地域の人やものを大切に、共に生きる子を育てます。 開：様々な社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。			

学校概要	創立 30 周年	学校長 村上 裕江	副校長 熊谷 眞理子	2 学期制	一般学級：20	個別支援学級：3
	児童生徒数： 632 人	主な関係校：横浜市立小田中学校(併設型小中一貫校)				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○SDGsを視点として、創造的に思考する力 ○つながりを考え、合意形成して伝える力 ○根拠となる理由や事例を明確にし、伝える力 ○情報を取捨選択する力	小田中学校	コミュニケーションを通して 社会や自分の未来を創造しようとする子ども ○協力的な問題解決に向けて、主体的・対話的に学びあう子どもを育てます。(授業のつながり) ○アンケートなども活用し、思いやりの心をもって人とかかわり、自分に自信をもっていきる子どもを育てます。(人のつながり) ○併設型小中一貫校として、地域との連携を図り、信頼される開かれた学校づくりを推進します。(学びのつながり)

中期取組目標	保護者・地域とのつながりの中で「夢中になって学ぶ楽しさ」を味わえる小学校を築く教職員集団「チーム小田」を目指します。 ○私たち「チーム小田」は、子ども一人一人を徹底的に大切に、安心・安全で信頼される学校づくりを目指します。 ○私たち「チーム小田」は、研究、研修に努め、子どもたちが学び合う楽しさを味わえる授業改善を図ります。 ○私たち「チーム小田」は、子どもたちの自尊感情をはぐくむために、心の育ちを支援する学校づくりに努めます。 ○私たち「チーム小田」は、小田中学校や地域とのかかわりを大切に、学校内外との協働を進めます。 ○私たち「チーム小田」は、自ら「学ぶ楽しさ」を子どもとともに実践し、学び続ける教職員集団であり続けます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく知	「開かれた楽しい授業」に向け、重点研テーマ「自分の考えをもち 学び合う子」を設定し授業改善を図る。重点研では、各教科において、自分の考えをもち表現したいと思える学習場面を設定し、考えを伝え合う中で改題解決に向かい、多角的な考えをもてるようにする。
担当 研究研修G	
豊かな心	・子どもの実態を大切に、道徳の授業や人権教育(人権週間を含む)を大切に、全学級道徳の授業公開を年1回実施し、懇談会等でも日頃の様子や授業の様子について話題に出すようにする。 ・たてわりふれあい活動や委員会活動の取り組みを充実させ、小田小ならではのよい伝統である異学年交流の日常化を継続していく。ペア学年に関わらず、学習や行事を通じた意図的な交流の充実を進めていく。 ・KCSや学援隊を含めた地域の方々との交流を行い、感謝の気持ちがもてるようにする。
担当 児童指導G・道徳部	
健やかな体	・体力向上一校一実践として行う長縄集会に向けて、学級で意図的・計画的に取り組む。また、「縄跳びの日」も設定し、意図的に取り組めるようにすることで体力の向上に励む。 ・自らの健康を考え、望ましい食習慣について学べるように、全学年でバランスイーターワークに取り組む。
担当 体育部	
児童指導	・学習スタンダードを徹底し、学校全体で同じ方向を向いて指導・支援をし、定着を図るようにする。 ・生活目標を「あいさつをしよう」「整えよう」に特化し、すすんで取り組めるように意識を高めていく。 ・小さなことでも丁寧に対応していくために、報告・連絡・相談がいつでもできる学年研を中心とした、風通しのよい体制のもと、対応をすすめる。必要に応じて、専任・養護教諭を含めたチーム体制での取り組みを充実させる。
担当 児童指導G	
地域連携	・学校支援活動について検討する協議会 開催 ・地域等への普及啓発、広報活動 ・昨年度の実績をもとにした学校支援ボランティア活動の作成と運用 ・学校支援活動の実施・学習支援活動・校内環境美化支援活動・図書館支援活動等の充実 ・年間計画とその活動実績をまとめ、次年度以降利用できるようにする。
担当 KCS	
特別支援	・個別支援学級の児童の交流級や交流学年と指導の連携を密にしていくために日々報告・連絡・相談をしていく。 ・個別支援学級の環境整備を行い、ユニバーサルデザイン教育について理解し、実践していく。 ・合理的配慮についても適切に行っていく。
担当 特別支援委員会	
国際交流	・YICAのカリキュラムとの統合性を図り、YICAの学習で学んだことを生かすことのできる年間計画を立て、計画的に交流を進める。 ・全校児童が姉妹校への相手意識を持続できるよう、朝会でぬいぐるみ交流や相手校の様子などを報告する場を定期的に設定する。 ・全校児童がオーストラリアの児童とパティを組み、行事などの折にメッセージ交換を行う。
担当 YICA	
学校運営協議会	・小田中学校との小中合同学校運営協議会に取り組み、小中9年間の児童・生徒の成長を連携して支えていく地域の力としての運営協議会の土台を築く。 ・小中合同学校運営協議会の利点を生かし、よりコミュニケーションの力を高める小中合同の活動を行い、「9年間で育てる子ども像」を目指す。
担当 副校長・教務部	
いじめへの対応	・月1回いじめ防止対策委員会を実施し、全校で見守る姿勢を大切に、再発防止及び予防・開発に努める。 ・年2回の児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりを行うとともに、現状の把握に努める。 ・心配なことがあったら、即時的に対応チームを作り、スピード感のある対応を進めていく。
担当 いじめ防止対策委員	
人材育成・組織運営(働き方改革)	・5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、月1回の活動を継続して行う。 ・週に1回、主幹会議を行い情報の共有を図る。 ・子どもと向き合う時間を確保するため、掲示板の活用、朝会や打ち合わせの簡潔化、会議の精選を行う。
担当 教務G	

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
<p>「元気 友達 笑顔 いっぱい かがやく 小田小学校」 知：課題解決に向けて、自らすすんで、根気強く取り組む子を育てます。 徳：豊かなふれあいを大切にし、互いを認め合える子を育てます。 体：心と体を鍛え、生命や健康を大切にすることを育てます。 公：地域の人やものを大切にし、共に生きる子を育てます。 開：様々な社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。</p>	<p>○SDG sを視点として、創造的に思考する力 ○つながりを考え、合意形成して伝える力 ○根拠となる理由や事例を明確にし、伝える力 ○情報を取捨選択する力</p>

(2) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
<p>保護者・地域とのつながりの中で「夢中になって学ぶ楽しさ」を味わえる小学校を築く教職員集団「チーム小田」を目指します。 ○私たち「チーム小田」は、子ども一人ひとりを徹底的に大切にし、安心、安全で信頼される学校づくりを目指します。 ○私たち「チーム小田」は、研究、研修に努め、子どもたちが学び合う楽しさを味わえる授業改善を図ります。 ○私たち「チーム小田」は、子どもたちの自尊感情を育むために、心の育ちを支援する学校づくりに努めます。 ○私たち「チーム小田」は、小田中学校や地域とのかかわりを大切にし、学校内外との協働を進めます。 ○私たち「チーム小田」は、自ら「学ぶ楽しさ」を子どもとともに実践し、学び続ける教職員集団であり続けます。</p>

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取り組み

重点取組分野	具体的取り組み
<p>生きて はたらく 知 担当 研究研修</p>	<p>・重点研テーマ「教師がつなぐ子どもの学び」を設定し、授業改善を図る。現在の特殊な状況下における新しい授業のスタイルを模索しながら、教師が子どもの学びをつなぎ、子ども一人一人がわかる楽しさや学ぶ喜びを感じられるようにしていきたい。そのために、教師はしっかりと児童の実態を把握し、子どもの考えを引き出したり、つなぎ合わせたりして、分かる授業を展開していく。</p>

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と分析

全体的に見ると、横浜市の平均と同じかやや下回る結果となっている。4年生以上の学年は横浜市の平均をやや上回るのは、ここ数年の傾向となっている。低学年での丁寧な学びの積み重ねが高学年の学びにつながっていると考えている。また、学力層Dの割合も、学年があがるにつれて減少傾向にある。重点研のテーマとして扱ってきた「児童の学び合い」の積み重ねが成果として表れてきていると思われる。

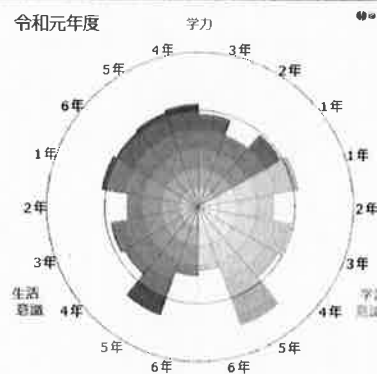
学習意識や生活意識には、学年によるばらつきが見られるが、「学校のきまり」や「友達や家族との約束」はしっかり守っていると答える児童の割合が非常に高い。高い規範意識も本校の特徴である。高い規範意識のもと、安心して学校生活を送れるようにしたい。

(2) 教科学習の状況

- 国語：基礎基本の数値がやや低くなっている。漢字はスキル学習などで繰り返し練習を行い、習熟を図っていきたい。
- 算数：算数の活用問題の正答率の下落が目立つ。普段の授業からジャンプアップとなる活用の問題を意識的に授業に取り入れながら、計算の力など「基礎基本」の定着も目指したい。
- 社会：学習意識は高いが、資料の読み取りや事象を正しく捉えることに課題が見られる。丁寧に指導を積み重ねたい。
- 理科：市の平均を大きく上回っている。支援員さんとの連携を図ることにより、今後も充実した実験を行っていきたい。

(3) 学習意識・生活意識と学力層とのクロス集計による分析

人とかかわるのが好きだと感じる児童が多いのは、ここ数年の本校の特徴の一つである。人とかかわることと、勉強が好きかどうかをクロス集計でみると、「勉強はきらいだけど、人とかかわるのは好き」という児童が市の平均よりも大きく上回っている。日々の授業で人とかかわり、サポートし合える関係を築いていくことで、勉強も好きにさせていきたい。



3 令和2年度 教科等として育成を目指す具体的な資質・能力を具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	<ul style="list-style-type: none"> ◆集団に所属していることを認識する力 ◆人の話を最後まで正確に聞く力 ◆本への関心をもち、自分で読む力 	<ul style="list-style-type: none"> ○音読練習を通して、新しい言葉を習得する。日常生活で、学習したことを使ったり繰り返し学習したりすることで、思ったことを言葉に表すことができるようにする。 ○友達の意見を聞きあう活動を積極的に取り入れ、相手を意識できるようにし、友達の考えのよいところを感じられるようにする。 	
2年	<ul style="list-style-type: none"> ◆思ったことを言葉にする力 	<ul style="list-style-type: none"> ○音読の継続や朝読書の継続を通して、本への関心を広げ、自分で読む力を伸ばすようにする。 ○友達の意見を聞き合う活動を積極的に取り入れ、友達の考えを知ったり、友達の意見を参考にしたりすることの大切さや良さを感じられるようにする。 	
3年	<ul style="list-style-type: none"> ◆根拠となる理由や事例を明確にし、伝える力 ◆相手や目的に応じて話す力 ◆辞書を使う力 ◆情報（聞いたこと）を比較・分類する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを伝える場面では、相手や目的を意識して、理由を明確にして表現できるようにする。 ○課題を解決する過程で、集めた材料を比較し、相違点を見つけようとする態度を養う。 ○辞書の使い方を理解し、学習に取り入れることで、語彙を増やすことを目指す。 	
4年	<ul style="list-style-type: none"> ◆目的や意図に応じて伝えることを整理する力 ◆つながりを考え、合意形成して伝える力 ◆情報を取捨選択する力 ◆批判的に物事をとらえる力 ◆創造的に思考する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの際は、常に相手や目的を意識できるように、児童にとって必要感のある話し合いの場を意図的に設定する。 ○課題解決の中で、常に目的をもって情報収集を行う。自分で整理・分類するために、分類・整理の仕方や視点を提示する。 ○読書の際など、分からない言葉は辞書を引くという習慣付けをする。 	
5年	<ul style="list-style-type: none"> ◆目的や意図に応じて伝えることを整理する力 ◆つながりを考え、合意形成して伝える力 ◆情報を取捨選択する力 ◆批判的に物事をとらえる力 ◆創造的に思考する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いの際は、自他の考えを正確に把握し、根拠が明確であるか検討し、課題と主張・根拠のつながりの整合性について考えることができるようにする。 ○教材に関連する情報を本や新聞などから集める学習活動を取り入れる。 ○情報の収集・整理・取捨選択するために、ラベリングやナンバリングしたものを、表や図、文章などを通して表現することができるようにする。 	
6年	<ul style="list-style-type: none"> ◆目的や意図に応じて伝えることを整理する力 ◆つながりを考え、合意形成して伝える力 ◆情報を取捨選択する力 ◆批判的に物事をとらえる力 ◆創造的に思考する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元を貫く学習を意識することで、目的意識・相手意識を高め、見通しのある学習を進められるようにする。 ○答えは複数あり得ることを前提として、様々な考えや感じ方があることを認めつつ、ノートやプリントなどで自分の思いを表現できるようにする。 	
個別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ◆集団に所属していることを認識する力 ◆思ったことを言葉にする力 ◆情報（聞いたこと）を比較・分類する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の会などの学習活動を通して、話の内容に興味をもち、相手を意識して最後まで聞こうとする態度を育成する。 ○朝の会などの学習活動を通して、自分の意志を伝えたり、自分の経験や考えを表現したりする態度を育成する。 ○健康観察や給食を通して、自分の体調の変化に気づき、規則正しい生活を大切にして過ごそうとする態度を育成する。 	